

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】
実施内容報告書

受託団体名： 国立大学法人 群馬大学

1. 事業名称

- ・ 日本に定住を希望する外国人住民が「高齢期」に向けて備えるための日本語教育支援事業

2. 事業の目的

- ・ 「地域」と「学習者」の文化的・社会的多様性に配慮した「生活者としての外国人」が日本に定住し「高齢期」に備えるための地域日本語教育プログラムを、異なる地域が日本語教室の企画・運営面で連携して実践・構築する。

3. 事業内容の概要

- ・ ①「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」プログラム拡充のためのカリキュラム開発をし、②開発したカリキュラムを実践する地域日本語教室指導者を養成する。③養成した人材と共に(a)外国人集住地域の「太田・大泉教室」と、(b)空白の地域の「東吾妻・中之条教室」の2つの教室で地域日本語教室を実施する。また、④プログラムの拡充・普及にむけた実態調査と、⑤実践地域関係者との協議を進める。

4. 事業の実施体制について

・**国立大学法人 群馬大学**

生活者としての外国人が「高齢期」に備えるための実態把握と対応方策を検討し、具体的な日本語教育プログラムとして、カリキュラムの開発・指導者の養成、日本語教育の実践を展開した。本学国際教育・研究センターが日本語教育を(主担当 牧原功)、多文化共生教育・研究プロジェクト推進室が、外国人住民の文化的・社会的多様性の実態把握と対応方策を(主担当 結城恵)、保健学研究科地域看護研究室がケア・プランの実践を専門的に監修した(主担当 佐藤由美)。

・**吾妻行政県税事務所・太田市・大泉町・中之条町**

学習者の募集への協力をした。本事業について市民に周知・広報した。さらに、成果の継続的活用を検討した。

・**群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生推進課**

本事業の意義、成果と課題を検証した。県内で本事業を活用するニーズのある地域を掘り起こし、施策立案に本事業の成果を活用した。

・**群馬県「多文化共生推進士」**

社会福祉、介護福祉、ファイナンシャル・プランニング、スポーツ指導、同時通訳等、それぞれの専門領域を活かし、日本語教育プログラムの開発に参画した。また、それぞれが担当する地域で、本日本語教育プログラムへのニーズのある地域を掘り起こし、実施に向けたコーディネートを図った。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	結城 恵	群馬大学教育基盤センター
2	牧原 功	群馬大学国際教育・研究センター
3	佐藤 由美	群馬大学保健学研究科
4	角田 淑江	群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課
5	坂庭 秀	群馬県吾妻振興局吾妻行政県税事務所
6	吉田 桂子	太田市企画部交流推進課
7	糸井 昌信	地域日本語教室指導者代表
8	関本 隆一	中之条町企画政策課
9	茂木 徹	群馬青年司法書士協議会
10	綿貫 通啓	渋川市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉グループ

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 6月 17 日(水) 15:00-17:00	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 大学会館 1 階 学務部会議室	角田淑江(群馬県), 吉田桂子(太田市), 関本隆一(中之条町), 茂木徹(群馬青年司法書士協議会), 糸井昌信(地域日本語教室指導者代表), 綿貫通啓(渋川市社会福祉協議会), 牧原功・山口和美・結城恵(群馬大学)	1. 出席者紹介運営委員の自己紹介 2. 委員長選出 運営委員会設置要綱を承認 委員長には、群馬大学教授結城恵を選出 3. 日本語教室について 平成 26 年度採択事業の成果と課題及び、平成 27 年度採択事業の骨子と概要について説明し、取組の実施内容と推進体制についての意見交換
2	平成 28 年 2月 21 日(日) 11:00-12:00	1時間	群馬大学太田 キャンパス 研修室2	茂木徹(群馬青年司法書士協議会), 糸井昌信(地域日本語教室指導者代表), 結城恵(群馬大学), 窪田健二(群馬大学副学長)	1. 平成 27 年度採択事業の概要及び6つの特徴について説明 2. 本取組の成果及び課題について説明 3. 実施した内容、推進体制、今後の展開についての意見交換

6. 取組についての報告

取組1： 地域日本語教室プログラム拡充のためのカリキュラム開発

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・「地域」と「学習者」の文化的・社会的多様性に配慮するカリキュラムの開発

(2) 取組内容

- ・ ①本事業の前身となる平成 26 年度本事業の分析・課題の抽出、②「地域」と「学習者」多様性に対応するカリキュラムに関する情報収集と分析、③①②を踏まえたカリキュラムの再構築。

(3) 対象者

- ・ 平成 26 年度の本事業で養成を終えた地域日本語指導者とコーディネーター

(4) 参加者の総数 14 人
 そのうちの日本語学習者数 該当せず 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
		3							11

(5) 開催時間数(回数) 11 回
 ・ 22 時間 (2 時間 × 全 11 回)

(6) 活動の内容

回	開催日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 6月3日(水) 19:00-21:00	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 教育学部 C102	小林均(立正大学), 小 佐野隼, 小林あけみ, 正田江利子(指導補助 予定者)山口和美,結城 恵(群馬大学)	・体の健康に着目したカリキュラムとして,ストレッチ ング・ウォーキング指導について検討した。
2	平成 27 年 8月11日(木) 17:00-19:00	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 教育学部 C102	坂本裕美(多文化共生 推進士),横山典子(指 導補助者),山口和美,結 城恵(群馬大学)	・高齢期に備え体と心の健康をテーマとするカリキ ュラムについて検討した。
3	平成 27 年 8月28日(金) 18:00-20:00	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 教育学部 C102	坂本裕美(多文化共生 推進士)横山典子(指 導補助者),山口和美,結 城恵(群馬大学)	・高齢期に備え体と心の健康をテーマとするカリキ ュラムについて検討した。
4	平成 27 年 9月9日(水) 19:00-21:00	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 教育学部 B102	坂本裕美,綿貫通啓(多 文化共生推進士)横山 典子,小佐野隼(指導補 助者),山口和美,結城恵 (群馬大学)	・介護の現場や介護予防の保健指導を参考にし ながら,高齢期に備えた体と心の健康をテーマとす るカリキュラムについて検討した。
5	平成 27 年 10月4日(日) 17:00-19:00	2時間	太田市役所	小林あけみ,葛尾あゆ みネイデ(指導補助 者),山口和美,結城恵 (群馬大学)	・旅行の計画等、余暇を楽しむためのカリキュラム について検討した。
6	平成 27 年 11月15日(日) 14:00-16:00	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 教育学部 C102	小林あけみ,葛尾あゆ みネイデ(指導補助 者),結城恵(群馬大学)	・旅行の計画等、余暇を楽しむためのカリキュラ ムについて検討した。 ・ライフイベントに関するカリキュラムについて検討 した。
7	平成 27 年 11月23日(月・ 祝) 17:30-19:30	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 教育学部 B101	小林あけみ,葛尾あゆ みネイデ(指導補助 者),山口和美,結城恵 (群馬大学)	・ライフイベントに関するカリキュラムについて検討 した。
8	平成 27 年 12月5日(土) 17:30-19:30	2時間	群馬大学荒牧 キャンパス 教育学部 B101	小林あけみ,葛尾あゆ みネイデ(指導補助 者),山口和美,結城恵 (群馬大学)	・高齢期に備え,広義での「クオリティオブライフ」に ついて考えるカリキュラムについて検討した。
9	平成 27 年 12月13日(日) 17:00-19:00	2時間	太田市役所	小林あけみ,葛尾あゆ みネイデ(指導補助 者),結城恵(群馬大学)	・高齢期に備え,広義での「クオリティオブライフ」に ついて考えるカリキュラムについて検討した。
10	平成 28 年 1月10日(日) 10:00-12:00	2時間	群馬大学太田 キャンパス 研修室2	坂本裕美(多文化共生 推進士),小林あけみ,葛 尾あゆみネイデ,小佐野	・学習内容の定着のためのカリキュラムについて 検討した。

				隼,糸井昌信,糸井和子,佐藤友美恵,正田江利子(指導補助者),山口和美,結城恵(群馬大学)	
11	平成 28 年 1 月 24 日(日) 10:00-12:00	2時間	群馬大学太田 キャンパス 研修室2	坂本裕美(多文化共生推進士),小林あけみ,葛尾あゆみネイデ,小佐野隼,糸井昌信、糸井和子,正田江利子, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA,(指導補助者)山口和美、結城恵(群馬大学)	・実践交流会及び成果報告会で学習者に発表してもらうために、これまでの学習内容を学習者が総復習できるような教材について検討した。

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【第2回平成 27 年6月3日】

高齢期に備えるための「ストレッチングとウォーキング」の単元について、専門家(立正大学・小林均先生)をお招きし、講習を受けた。また、小林先生のご意見をいただきながら、平成 26 年度に実施した同様の単元のテキスト、映像記録及び学習者の様子の記録を分析し、課題を抽出した。その結果、(1)昨年度に実施した①ストレッチングと②ウォーキングに加え、③マッサージに関するトピックと活動を新たに加えること、(2)学習者が主体的に日常生活で継続して取り組めるよう、学習者が参加者の前で日本語を使ってこれらの活動のデモンストレーションできる機会を用意することとなった。昨年度より懸案となっていたこの単元のテキストについても、本年度の学習者の学びの様子を確認しながら、学習者が家庭や職場でも率先して活用できるようなテキストづくりを念頭に検討することとなった。



取組事例②

【第 11 回 平成 28 年1月 24 日】

平成 28 年 2 月 21 日に開催予定の「実践交流会・成果報告会」において、学習者が来場者を前に成果の発表ができるように、これまでの学習内容の総復習教材と、それぞれの学習者に担当してもらう成果発表の内容項目を整理した。その上で、学習者の学習レベルや母語の多様性に対応するカリキュラムづくりについて協議した。



(8) 目標の達成状況・成果

本取組はカリキュラム拡充のためのカリキュラム開発が目的であり、その成果は、地域日本語教室に参加する学習者の学びの様子により評価されたい。したがって、取組3の記述を参照されたい。

(9) 今後の改善点について

いくつかの単元について具体的な課題と課題解決のための方策案を導き出すことができた。
例えば、単元「ストレッチング」については、以下のような課題を抽出し、課題解決のための方策を導いた。

[課題]

- 1) ストレッチングは、今後各回に導入してあるので全体のプロセスを考え、それぞれの段階に応じた取り組みにすること。
- 2) 日本語学習では、本日の会話のねらいを明確にし、正しい日本語を繰り返し練習する間面を保障していくこと。
- 3) 一人一人の日本語理解力の掌握とグループ編成の仕方

[課題解決のための方策案]

- 1) ストレッチングの初期段階では、さまざまなことをたくさん取り入れるのではなく、ポイントを押さえて基本部分を活動の中心として、家での実践に結びつくように徹底していくこと。
- 2) 本日学習する日本語の会話文を精選し、つまずきやすい部分や重点練習箇所を指導者が共通理解をしておくこと。実践場面では、各指導者やその場で間違いの修正や発音のモデルなどを細やかに行っていく。
- 3) 日本語理解力の掌握では、各回のテーマによっても異なってくるので、実践場面での見取りを充実させ、その都度対応する。

取組2： 地域日本語教室プログラム拡充のための教室指導者養成

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・ 「地域」と「学習者」の文化的・社会的多様性に配慮する方法を習得した地域日本語教室指導者を養成する。

(2) 取組内容

- ・ 学習者の理解・教材研究・単元毎の学習教材の作成・単元毎の教案の作成・授業実践・実践後の振り返りで、「地域」と「学習者」の文化的・社会的多様性に配慮する人材を養成する。

(3) 対象者

- 平成 26 年度の本事業で養成を終えた地域日本語指導者とコーディネーター及び地域日本語指導者としての資質をもつ人材。

(4) 参加者の総数 26 人

そのうちの日本語学習者数 該当せず 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
		3					1		22

(5) 開催時間数(回数) 13回 ・ 40 時間 (回によって開催時間は異なる。下表参照)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 6 月 21 日(日) 10:00~17:15	6時間	群馬大学 荒牧キャンパス	14 人	本年度日本語教育事業の取組について	- 平成 27 年度日本に定住を希望する外国人住民が「高齢期」に向けて備えるための日本語教育支援事業の概要、カリキュラム案の基本事項、スケジュールについて説明。 - 群馬大学保健学研究科 佐藤由美教授より健康づくりについて講義。 - 狩野愛子先生によるリラクゼーションマッサージの指導。	結城 恵 佐藤 由美 狩野 愛子氏	山口 和美
2	平成 27 年 6 月 27 日(土) 10:00~17:00	6時間	群馬大学 太田キャンパス	12 人	第 1 回・第 2 回日本語教室の講義について	- 日本語教室初回「オリエンテーション」、第 2 回「体と心を元気にする I」、それぞれの講義内容について意見交換。 - 活動内容を決め、指導計画書及び教材の作成。	結城 恵	山口 和美
3	平成 27 年 7 月 8 日(水) 19:00~21:00	2時間	群馬大学 荒牧キャンパス	6 人	第 1 回日本語教室の準備について	- 指導計画書及び教材の検討、見直し。 - 講義当日のシミュレーション。	結城 恵	山口 和美
4	平成 27 年 7 月 12 日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3時間	群馬大学 太田キャンパス	14 人	第 1 回日本語教室の事前事後実施の検討	- 初回「オリエンテーション」の講義内容の検討、見直し。 - 講義内容の振り返り。	結城 恵	山口 和美
5	平成 27 年 7 月 19 日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3時間	太田市 沢野行政センター	15 人	第 2 回日本語教室の事前事後実施の検討	「体と心を元気にする I (ストレッチング・ウォーキング、リラクゼーション)」の講義内容の検討、見直し。 - 講義内容の振り返り。	結城 恵 小林 均氏	狩野愛子, 山口 和美

6	平成 27 年 7 月 27 日(月) 19:00~21:00	2時間	群馬大学 荒牧キャン パス	4人	第4回~6回日本 語教室の講義内 容の検討	・「旅行の計画を立てる Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」の講義内容、教 材、連携機関等の検討。	結城 恵	山口 和美
7	平成 27 年 8 月 11 日(火) 19:00~21:00	2時間	群馬大学 荒牧キャン パス	5人	第3回日本語教 室の講義内容の 検討	・「体と心を元気にするⅡ (頭の体操)」の講義内容 の検討。 ・指導計画書及び教材の 作成。	結城 恵	山口 和美
8	平成 27 年 9 月 13 日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3時間	群馬大学 太田キャン パス	10 人	第3回日本語教 室の事前事後実 施の検討	・「体と心を元気にするⅡ (頭の体操)」の講義内容 の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城 恵	山口 和美
9	平成 27 年 10 月 4 日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3時間	群馬大学 太田キャン パス	18 人	第4回日本語教 室の事前事後実 施の検討	・「旅行の計画を立てるⅠ (中之条町バス旅行につ いて事前学習)」の講義 内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城 恵	山口 和美
10	平成 27 年 10 月 25 日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3時間	群馬大学 太田キャン パス	10 人	第5回日本語教 室の事前事後実 施の検討	・「旅行の計画を立てるⅡ (中之条町バス旅行での 係分担、事前準備)」の講 義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城 恵	山口 和美
11	平成 27 年 11 月 22 日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3時間	群馬大学 太田キャン パス	13 人	第6・7回日本語 教室の事前事後 実施の検討	・「旅行の計画を立てるⅡ (中之条町バス旅行での 係分担等)」の振り返り ・「イベントに参加するⅠ (お葬式)」の講義内容の 検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城 恵	山口 和美
12	平成 27 年 12 月 13 日(日) 9:30~12:00 16:15~16:45	3時間	群馬大学 太田キャン パス	12 人	第8回日本語教 室の事前事後実 施の検討	・「イベントに参加するⅡ (大切な人・ものについ て)」の講義内容の検討、 見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城 恵	山口 和美
13	平成 28 年 1 月 10 日(日) 11:30~12:00 16:15~16:45	1時間	群馬大学 太田キャン パス	9人	第9回日本語教 室の事前事後実 施の検討	・「イベントに参加するⅢ (自分らしい生き方を見つ める)」の講義内容の検 討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城 恵	山口 和美

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【第2回 平成 27 年6月 27 日】

日本語教室初回「オリエンテーション」、第2回「体と心を元気にするⅠ」、それぞれの講義内容について本事業の趣旨に基づき目標と活動内容を検討した。全員で意見交換をし、活動内容を定め、その活動内容を指導計画書及び教材づくりに展開していく方法について学んだ。



取組事例②

【第3回 平成 27 年年7月8日】

地域日本語教室初回「オリエンテーション」、及び、第2回「体と心を元気にするⅠ」の、指導計画書及び教材の見直しと改善点の検討を行った。学習者とのラポール形成を効果的に行うための、自己紹介カードの作成とグループ分け、講義当日の受付から解散までのシミュレーションを、学習者・指導者・教材の視点から検証し、掲示物等にも工夫をした。



(8) 目標の達成状況・成果

個々の単元について具体的な課題と課題解決のための方策案を導き出すことができた。

例えば、単元「旅行の計画を立てる1」については、①本日の学習キーポイントを事前に明確にしたうえで教育実践を展開し、実践後の振り返りで、②次回への課題を抽出し、③課題解決のための方策案を導いた。

①当日の学習キーポイント

- 1) 来るべき高齢期に備えたバスツアーの準備をする。
- 2) 通訳をしすぎない。
- 3) 新しい単語を際立たせる工夫をする(読み・表記・発音の間。)
- 4) 自分の住所を漢字で書けることから自信につなげていく。

②次への課題

- 1) それぞれの参加者の動向が明確になるように準備して、なるべくアクシデントが起こらないような準備をする。
- 2) 普段聞きなれない日本語は、発音を誤って覚えていたり、間違ったまま覚えていたりしているので、修正する機会を取り入れる。
- 3) 文化や習慣の違いは分かっているつもりでも、差異に戸惑い活動の妨げになることもある。モチベーシ

ョンや接し方の心構え、自分の文化について新たな発見がある。

③課題解決のための方策案

- 1) タイムテーブルを作成したり、名札を準備したりする。
- 2) 難しい日本語には、提示の仕方を工夫して大きく映し出したり、丁寧に筆順をなぞったり、細やかな指導の時間を確保していく。一つでも修正したり覚えたりすることが意欲につながっていく。
- 3) 個々の学習者間にある文化的な違いを知り、「ねばならない」という考えから脱却し、お国事情を活かす知恵をみんなで考える。

(9) 今後の改善点について

地域日本語教室の実践に必要な基本的な知識・技能を習得するための講座に加え、教育実践当日の事前事後に実施する、事前確認と振り返りを含めた養成講座には、実践の効果の検証と課題抽出、それに基づく今後の改善策を導出するうえで大変有効であった。当教室の指導スタッフには管理職を体験した退職教員や、教員経験の長い人材もいるので、その利点を生かし、これらの貴重な人材のアドバイスを皆で共有して実践の改善を図っていきたい。

取組3: 地域日本語教室プログラム拡充のための地域日本語教室の開催

【太田・大泉教室】

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・「地域」と「学習者」の文化的・社会的多様性に配慮する地域日本語教室の開催

(2) 取組内容

- ・「冠婚葬祭」「防犯」「体と心のメンテナンス」「ぐんま探訪」の4つのテーマを整理・統合したカリキュラムを提供する。

(3) 対象者

- ・「太田・大泉地域」と「東吾妻・中之条地域」の自治体や国際交流協会等にも周知・広報し、学習者を募る。

(4) 参加者の総数 77 人

そのうちの日本語学習者数 51 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
		37	1				10	2	

※その他の国籍と人数: スリランカ 1人

(5) 開催時間数(回数) 10回

- ・ 60 時間(回によって開催時間は異なる。下表参照)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 7 月 12 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャンパス	40 人	オリエンテーション	・日本語教室の趣旨説明。 ・スタッフ紹介 ・自己紹介の仕方について学び、スキットを用いて、参加者同士で練習。	結城 恵 山口 和美	横山典子, 佐藤工祐, 佐藤友美恵,糸井昌信,糸井和子,葛尾あゆみ,ネイデ,山田恵美子, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA,坂本裕美, 小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利子,友成佐智子
2	平成 27 年 7 月 19 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	太田市 沢野行政センター	34 人	体と心を元気にするⅠ (ストレッチングとウォーキング・リラクゼーション)	・健康づくりのためのストレッチングとウォーキング: 基本的な体の部位、正しいストレッチングの仕方について学習し、参加者全員で実践。 ・リラクゼーションマッサージ: 参加者の国でリラックスする方法について意見交換。いたわりの言葉を学び、3分マッサージの仕方を取得し、参加者同士で実践。	小林 均氏 結城 恵 山口 和美	狩野愛子, 横山典子, 糸井昌信, 糸井和子, 山田恵美子, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA,綿貫通啓, 坂本裕美, 小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利子,友成佐智子
3	平成 27 年 9 月 13 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャンパス	24 人	体と心を元気にするⅡ (頭の体操)	・参加者の国で頭の老化を防ぐためのゲーム等の紹介、意見交換。 ・家で簡単に実践できる「頭の体操」を学び、参加者全員で実践。 ・前回学んだストレッチングの実践。	結城 恵 山口 和美	横山典子, 葛尾あゆみ,ネイデ,綿貫通啓,坂本裕美,小佐野隼,小林あけみ,正田江利子,友成佐智子
4	平成 27 年 10 月 4 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャンパス	23 人	旅行の計画を立てるⅠ (中之条町バス旅行について事前学習)	・中之条町について事前学習。 ・バス旅行の申込みに使うフレーズの学習、会話練習及び参加申込書の記入。 ・旅行当日の係について意見交換。 ・第2回のときに学んだストレッチングの実践。	小林 均氏 結城 恵 山口 和美	横山典子, 佐藤工祐, 佐藤友美恵,糸井昌信,糸井和子,葛尾あゆみ,ネイデ,山田恵美子, FARIA NATHALIA

								LEYKO YAMAKAW A,綿貫通啓, 小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利 子,友成佐 智子
5	平成 27 年 10 月 25 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャン パス	18 人	旅行の計画 を立てるⅡ (中之条町 バス旅行で の係分担、 事前準備)	・前回学習した言葉と会話の復習。 ・旅行当日の係分担を決定。 ・各係の活動に使うフレーズの学習・練習。 ・旅行について参加者、スケジュール、持ち物等の最終説明。 ・ストレッチング係によるストレッチングの指導。	山口 和美	横山典子, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみ ネイデ,小林 あけみ,正田 江利子,
6	平成 27 年 11 月 8 日(日) 9:00-18:00	9時間	中之条町	14 人	旅行の計画 を立てるⅢ (本番)	・会計係:お支払いするときの会話練習(こちらは領収書/おつりです等)。 ・環境係:全員がそろったかどうかの確認や、次の集合時間の案内等。 ・ストレッチング係:到着後、ストレッチングの指導。 ・お礼係:お茶講でお世話になったみなさまへのお礼の言葉を贈る。 ・レクリエーション係:帰りの車中での活動を担当(歌、ビンゴ)	結城 恵 山口 和美	横山典子, 糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみ ネイデ,山田 恵美子, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAW A,綿貫通啓, 小林あけみ, 正田江利 子,友成佐 智子,
7	平成 27 年 11 月 22 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャン パス	9 人	イベントに 参加するⅠ (お葬式)	・日本のお葬式の流れについて説明。 ・日本のお葬式に参列するときに必要な準備物(お香典袋、服装等)の紹介。お香典袋の書き方の学習。 ・参加者の国でお葬式はどのように行われているのかを紹介してもらい、日本のお葬式となにが違うのかについて意見交換。	山口 和美	葛尾あゆみ ネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAW A,小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利 子,友成佐 智子,
8	平成 27 年 12 月 13 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャン パス	10 人	イベントに 参加するⅡ (大切な人・ ものについ て)	・お葬式について学習したあと、国籍に関係なく、大切な人を送るとき気持ちは同じだと気付く。自分のルーツと生き方を振り返り、参加者にとって大切な人・ものについて考え、伝え合う。 ・発表するときの基本フレーズの学習。 ・参加者に紹介したい、自分にとって大切な人・ものについて、原稿作成と発表練習。	結城 恵 山口 和美	佐藤工祐, 佐藤友美 恵,糸井和 子,葛尾あ ゆみネイデ, 山田恵美子, 小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利 子,友成佐 智子,

						・第2回に学んだストレッチングの実践。		
9	平成 28 年 1 月 10 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャン パス	9人	イベントに 参加するⅢ (自分らしい 生き方を見 つめる)	・自分にとって大切な人・もの についての発表。 ・ほかの参加者の発表を聴 き、感じたことを簡単な日本 語で伝える。	結城 恵 山口 和美	佐藤友美 恵,糸井昌 信,糸井和 子,葛尾あゆ み,ネイデ,坂 本裕美,小 佐野隼,小 林あけみ,正 田江利子
10	平成 28 年 1 月 24 日(日) 13:00-16:00	3時間 × 2回	群馬大学 太田キャン パス	10人	実践交流・ 意見交換会 の準備	・日本語教室で学んできたこ との振り返り、言葉・フレー ズ・会話の復習。 ・日本語教室の各回で学んだ ことを学習者がまとめ、原稿 作成及び発表のリハーサル。	結城 恵 山口 和美 山田恵美子	葛尾あゆみ ネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAW A,坂本裕美, 小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利 子,友成佐 智子

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【第6回 平成 27 年 11 月 8 日 旅行の計画を立てるⅢ】

自分たちが計画した旅行での役割を、各自日本語を使用して遂行した。

①全員で行ったこと

中之条地域関係者のみなさんに、当地域日本語教室で学んだ日本語の成果を伝え、意見交換をするなかで、地域日本語教室の大切さをご理解頂くようにした。

②係毎に行ったこと

- ・会計係: お支払いするときの会話練習(こちらは領収書/おつりです等)
- ・環境係: 全員がそろったかどうかの確認や次の集合時間の案内等
- ・ストレッチング係: 到着後、ストレッチングの指導
- ・お礼係: お茶講でお世話になったみなさまへのお礼の言葉を贈る
- ・レクリエーション係: 帰りの車中での活動を担当(歌、ビンゴ)



取組事例②

【第7回 平成 27 年 11 月 22 日 イベントに参加する I】

- ・日本のお葬式の流れについて学習した。
- ・日本のお葬式に参列するときに必要な準備物(お香典袋、服装等)を学習した。
- ・お香典袋の書き方を学習し、漢字を含めて読み書きが出来るようになった。
- ・参加者の国でお葬式はどのように行われているのかを紹介し合い、日本のお葬式となにが違うのかについて意見交換した。



(8) 目標の達成状況・成果

目標の達成状況については、取組5の該当部分を参照されたい。個々の単元について学習者の状況を振り返り、次の教室への目標等を明確にし、実践するようにした。例えば、第6回「旅行の計画を立てるⅢ」(平成 27 年 11 月 8 日実施)では、成果として次のような課題を抽出することができた。

- 1) 登録している人であっても、途中で参加ができない会があると、次への活動につながりにくくなっている。
学習者の安定した参加状況を作っていく必要がある。
- 2) 運営面では、全体の流れを見通し、それぞれの活動の時間を保障していくこと、それぞれの指導者が早めに分担を把握して活動がスムーズになるよう配慮していくことである。また、どの会にも共通することであるが、本時の中心となる活動・覚えていく言葉・基本文型については、しっかり把握しておくことが大切である。
- 3) 日本語教室で日本語や日本文化を学ぶという前提ではあるが、基本的な考え方として、お互いの文化や言葉を大切にし、心のよりどころを敬っていくこと、精神的な部分を大切にしていく。

(9) 今後の改善点について

個々の単元について学習者の状況を振り返り、抽出した課題について、具体的な改善点を検討した。例えば、第6回「旅行の計画を立てるⅢ」(平成 27 年 11 月 8 日実施)では、次のような課題解決のための方策案を導き出した。

- 1) 参加できていない人には、参加しやすいように前回の様子の概略をメールにて伝えてきてはいたが、なかなか次回参加に結びつかなくなっている。さらに一歩踏み込んで、活動内容を画像や動画などで配信し、おもしろさや楽しさを出すような情報を発信し、参加しやすいような環境を作っていく。次回の活動につながる最後の場面での言葉かけなど、意欲付のためのアプローチの工夫を行う。
- 2) 時間調整をする。計画段階で指導者側が、それぞれ役割を把握し何をするか、ねらいに迫る運営ができるように事前の話し合いを充実させる。また、事前話し合いに参加できない指導者もいるので、ポイントを絞った分かりやすい資料の提示を試みていく。

- 3)活動の中でも「お互いに聞く姿勢」を大切にしていく。活動の時間配分、双方向の発言時間の保障、感想の発表など反応の出しやすい空間・運営としていく。※検証方法(アンケートや評価等)も含めて具体的に記載すること。※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

【東吾妻・中之条教室】

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・「空白の地域」での周辺地域の自治体や国際交流協会等にも周知・広報し、関心のある学習者に参加頂くと共に、教室運営に関わる人材を養成するための基盤づくりをすすめる。

(2) 取組内容

- ・群馬県吾妻行政県税事務所及び中之条町企画政策課関係者との協議、及び、中之条在住の多文化共生推進士による関係機関や外国人住民の実態把握等により、基盤づくりの可能性を探った。その結果、本年度は教室開催が実現しない結果となった(詳細は取組5参照)。

(3) 対象者 該当しない

(4) 参加者の総数 該当しない

(5) 開催時間数(回数) 該当しない

(6) 活動の内容 該当しない

(7) 特徴的な活動風景 該当しない

(8) 目標の達成状況・成果

中之条地域での【太田・大泉教室】の学習者との交流は実現することができ、当教室関係者と学習者を通して地域日本語教室の内容と必要性について、直接、理解して頂くきっかけを作ることには成功した。しかし、中之条地域に在住する「生活者としての外国人」のほとんどが技能実習生であり、「高齢期」をぐんまで迎える予定がないということ、わずかにいる日本人を配偶者とする「生活者としての外国人」は、家庭や地域に溶け込み、「高齢期」への備えは家庭等の協力があり、特に教室で学ぶ必要がないという実態も判明した。

(9) 今後の改善点について

当事業のテーマで「空白の地域」での実践展開をすることの妥当性を含め、対象地域の再検討を進めるか、中之条地域で暮らす技能実習生のニーズに合わせたテーマを再検討するかを、【太田・大泉教室】でのテーマとの継続・発展性とを合わせて検討する必要がある。

取組4： 地域日本語教室プログラム拡充・普及にむけた実態調査と実践地域関係者との協議会の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・「太田・大泉」「東吾妻・中之条」地域で学習者が継続して地域日本語教室で学べる環境整備の具体的な方策を導き出す。

(2) 取組内容

- ・2つの地域で日本語教室を企画・運営面する上で、留意すべき「高齢期」に備えるための外国人住民のニーズと地域の実情を把握し、実践できる方策と関係期間との協働関係を構築する。

(3) 対象者

- ・本事業の指導者・コーディネーター・2つの対象地域の関係機関の実務担当者。

(4) 参加者の総数 6 人

そのうちの日本語学習者数 該当しない 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									6

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 56.5 時間 (下表参照)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	参加人数	取組のテーマ	内容	取組担当者	対応者
1	平成 27 年 6 月 25 日(木) 13:00-15:00	2 時間	中之条町役場	3 人	地域関係者との地協議会開催	東吾妻・中之条地域における日本語教室の開催に向け、地域関係者と協議を行った。	山口和美	中之条町役場企画政策課
2	平成 27 年 9 月 28 日(木) 11:00-15:00	4 時間	中之条町役場	3 人	地域関係者との地協議会開催	太田・大泉地域の地域日本語教室の実践を東吾妻・中之条地域で活用する方策について地域関係者と協議を行った。	山口和美	中之条町役場企画政策課
3	平成 27 年 10 月 3 日～10 月 18 日(日) 9:00～18:00	8 時間 × 3 回	東京大学本郷キャンパス	1 人	プログラム拡充・普及に向けた実態調査	外国人住民の高齢化について、収集データにより調査した。	結城恵	
4	平成 28 年 1 月 16 日(土) 12:00-16:00	4 時間	UR アクティ学園西町	1 人	プログラム拡充・普及に向けた実態調査	外国人住民の高齢者向け集合住宅への居住に関するヒアリング調査を実施した。	結城恵	
5	平成 28 年 1 月 31 日(日) 12:00-16:00	4 時間	UR 膳所公園	1 人	プログラム拡充・普及に向けた実態調査	外国人住民の高齢者向け集合住宅への居住に関するヒアリング調査を実施した。	結城恵	
6	平成 28 年 2 月 5 日～2 月 26 日 13:00-16:00	3 時間 × 4 回	群馬大学荒牧キャンパス	1 人	プログラム拡充・普及に向けた実態調査	外国人住民のニーズと地域の実情に関する実態調査	山田恵美子	

7	平成 28 年 3 月 4 日(金)9:00 ~12:00	3 時間	群馬大学荒 牧キャンパ ス	1人	プログラム 拡充・普及 に向けた実 態調査	外国人住民のニーズと地域 の実情に関する実態調査	山田恵美子	
8	平成 28 年 3 月 13 (日) 13:20-16:50	3.5 時間	名古屋国際 センター別 棟ホール	1人	プログラム 拡充・普及 に向けた実 態調査	外国人の高齢化が進む状況 の中で異文化介護に取り組 む実践事例の調査を行った。	結城恵	

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【第2回 平成 27 年9月 25 日】

太田・大泉地域の地域日本語教室の実践を東吾妻・中之条地域で活用する方策について地域関係者と協議を行った。【太田・大泉教室】の学習者・指導者が中之条町で交流する候補地等も訪問して検討した。



取組事例②

【第5回 平成 28 年1月 31 日】

「生活者としての外国人」住民が集合住宅に居住し、日本に長く住み、やがて高齢期を迎えるにあたり、どのような暮らし方や地域との付き合いをしているのかについてヒアリング調査をした。その結果、外国人住民が散在する、あいほとんどいない集合住宅では、外国人住民が孤立しがちであり、回覧板等も回ってこないで地域で生きていくために必要な情報が入手しにくい傾向があることが確認された。同様の経験をもつ A さんからは、地域で農地を借り、野菜等を育てることにより、近隣のみなさんとコミュニケーションが図れるようになり、そこから生活に役立つ情報が入るようになったという話を聞くことができ、集合住宅に居住する外国人住民の高齢期の備えは、家庭と職場以外にも、地域で自律的に交流できる場づくりが必要であるという示唆を得た。



(8) 目標の達成状況・成果

中之条地域での実態調査や関係者との協議から、【太田・大泉教室】の学習者との交流は実現することができ、当教室関係者と学習者を通して地域日本語教室の内容と必要性について、直接お伝えし、その意義や可能性について理解して頂くことができた。しかし、中之条地域に在住する「生活者としての外国人」のほとんどが技能実習生であり、「高齢期」をぐんまで迎える予定がないということ、わずかにいる日本人を配偶者とする「生活者としての外国人」は、家庭や地域に溶け込み、「高齢期」への備えは家庭等の協力があり、特に教室で学ぶ必要がないという実態も判明した。

日本で高齢期を迎える外国人住民にとって、安心できる「住まい」と「地域」を選択し、確保するということが高齢期への不安を軽減する要因となるが、その具体的な方策について外国人住民の目で理解することは難しい。ある紹介を得て、群馬県外の事例を調査することができ、「地域」で生きていく上で必要な情報を得る場として、自然農園やクラフト教室など、趣味がきっかけとなって地域の人々との交流が生まれる事例も把握できた。

(9) 今後の改善点について

「生活者としての外国人」の日本語教育ニーズも、高齢期の備えに関する興味・関心も、その外国人住民が日本にいる状況により大きく異なることをよく踏まえて、事業を設計する必要があることを改めて認識した。

また、本事業での成果を他県他地域においても参考となるようなものにするためには、それぞれの地域の住環境にも考慮し、参考となる情報をテキスト等に記載する必要がある。

取組5： 地域日本語教室プログラム拡充のためのシンポジウム(実践交流・成果報告会)の開催

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・ 群馬県内外のより広い地域に普及させる上で改善をはかるべき事項を抽出しプログラム充実のための方策を導き出す。

(2) 取組内容

- ・ 本事業取組の報告をもとに、その効果検証と、今後の課題と課題克服のための方策を、県内外の関係者からの知見をいただきながらプログラム充実のための方策を導き出す。

(3) 対象者

- ・ 高齢者に関わる行政、社会福祉、保健等関係機関に従事する者、広く県民一般。

(4) 参加者の総数 60 人

そのうちの日本語学習者数 9 人

【出身・国籍別内訳】（日本語学習者の家族や知り合いを含む）

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
0	0	7(うち1人二重国籍)	2(うち1人二重国籍)	1(二重国籍)	0	0	18	5(うち1人二重国籍)	25(うち2人二重国籍)

※その他の国籍と人数:

- ・パキスタン 1
- ・二重国籍 3 (1. ブラジル・フィリピン 2. 日本・ネパール 3. 日本・ベトナム)
- ・国籍不明 4 ※ブラジルかペルー

(5) 開催時間数(回数) 1回

・ 4.5 時間 (4.5 時間×全 1回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	参加者	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 2月 21 日(日) 12:00-16:30	4.5 時間	群馬大学 太田キャンパス	8人	実践交流・意見交換会	これまでの取組を指導者と学習者が報告する。その報告成果をもとに、指導者・学習者・参観者が意見交換をしながら、地域日本語教育プログラム充実のための方策を探る。	結城 恵 山口 和美	糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみ ネイデ,山田 恵美子, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 坂本裕美, 小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利子, 友成佐智子, 芝 由紀子, 小林均, 田島志保, 増田陽子

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【第1回 平成 28 年2月 21 日】

これまでの取組を指導者と学習者が報告する。報告では、学習者が教室の指導役になって、日本語を使って、会場に集まった人たちにストレッチングやマッサージ、「頭の体操」を紹介するという場面を用意した。その報告成果をもとに、指導者・学習者・参観者が意見交換をしながら、地域日本語教育プログラム充実のための方策を探る。



(8) 目標の達成状況・成果

運営委員会や会場参加者から次のようなコメントを得た。以下のコメントにも記されているように、運営委員会や会場参加者からも好評であり、別紙の日本語学習者に対するアンケート調査の結果も学習者からの満足度の高さと学習の継続希望が現れていた。

運営委員会からのコメント

- ・マルティナさんのような何でも人前でこなせる人材が出てきていることに日本語教室の地道な活動や人とのつながりを感じている。
- ・体験を通じて楽しく学んでいる姿が印象的である。体験を通して、定着していくものだということを強く感じた。
- ・会場に集っている全ての人が楽しそうで、一人一人の人がその雰囲気を作っているのだと感じている。

多文化の環境は、さらに豊かな環境を作っていくものだと感じている。

- ・楽しい機会を通じ、日常生活の中で学ぶことはこれからの生活に大いに役に立つことだと言うことを強く感じた。

会場参加者からのコメント

- ・楽しい時間を過ごすことができたし、学びの多い時間となった。
- ・外国人は、普通教室で学ぶことは大変難しさがあるので国際教室で細やかに支援をしてもらえることは大変助かる。
「みんなに通級したほうがいいですよ。」と言いたい。また、本日のような交流の場があると本当にうれしいです。
- ・毎日の積み重ねが大切であることが、改めて確認できた。日本人外国人問わず社会の中でたくましく生きていくことが大事です。
- ・元気で楽しく過ごしている様子が感じられてうれしかった。自分の成長が感じられたという感想は、とても貴重なことであり、その言葉を聞くことができて感動した。

(9) 今後の改善点について

今後は、取組2と取組3の記述にも示したように、指導者養成講座での振り返り等で抽出された課題の解決を核に、本プログラムの拡充を図りたい。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業は、日本国内に定住している外国人等を対象とし、日常生活を営む上で必要となる日本語能力等を習得できるよう各地の優れた取組を支援することにより、地域における日本語教育の拠点が各地に整備され、日本語教育の推進が図られることを目的とした。

平成 25・26 年度の実績を踏まえ、7つの具体的な目標を設定した。

1. 「カリキュラムの体系化」によるぐんまモデルの構築
2. 地域日本語教室指導者の養成と活用
3. 地域日本語教室の内容を学習者の提案に基づき構成
4. 多文化共生推進士・「多文化共生推進士」養成ユニット履修生の活用
5. 「空白の地域」としての中之条地域との連携と実施可能性の模索
6. 専門家・専門機関との連携の強化
7. 学術研究と連動

以下の(2)～(6)については、上述した(1)の1～7に対応させて、以下にまとめて記述する。

- (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果
- (3) 地域における事業の効果、成果
- (4) 地域の関係者との連携による効果、成果
- (5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について
- (6) 改善点、今後の課題について

1. 「カリキュラムの体系化」によるぐんまモデルの構築

(1) 成果

- ① 理念・内容・方法・エンパワーメントが一体化したカリキュラムづくりに取り組めた。
- ② 相互理解・相互尊重の関係性に基づく実践構築を構築した。

(2) 課題

- ① 効果検証(2月21日の実践)に基づく取組の再構築
第三者にも伝わるようなテキスト・指導書の作成

2. 地域日本語教室指導者の養成と活用

(1) 成果

受講者数 23名 うち 30時間以上の養成を受けた者 15名

(2) 課題

群馬大学が主催する地域日本語教室を地域人材が主催する地域日本語教室へ

3. 地域日本語教室の内容を学習者の提案に基づき構成

- (1) 成果 ほとんどすべての提案をカリキュラムに反映できた
- (2) 課題 学習者の継続参加を促す工夫

4. 多文化共生推進士・「多文化共生推進士」養成ユニット履修生の活用

(1) 「多文化共生推進士」養成ユニット生

- ・ 指導者養成講座の全ての講義に参加

(2) 「多文化共生推進士」

- ・ 対象コミュニティをまわり、学習者募集を周知広報
- ・ 社会福祉士・介護福祉士として、その専門知識・技能を活かし、第3回「頭の体操」を担当。

5. 「空白の地域」としての中之条地域との連携と実施可能性の模索

(1) 趣旨

群馬大学が地域関係者と協働して太田キャンパスで実施している地域日本語教室に通う外国人学習者が、地域日本語教育の「空白の地域」となっている中之条町を訪問し、住民等関係者との交流を通して、日本語教室の成果を発表。

このことにより、中之条町関係者及び中之条に居住する外国人住民の、地域日本語教室への関心を高め、その重要性を認識してもらいながら、今後中之条町との連携や中之条町における地域日本語教育の実施の可能性も探った。

(2) 日時 平成27年11月8日(日)9:00～18:00

(3) 参加者 全29人(うち学習者14人、指導スタッフ他15人)

(4) 交流内容

次の3つの活動の場を提供し、外国人学習者は日本語教室の成果を発表し、中之条町民と日本語を通じた交流を図った。(①は全員参加。②と③は選択。)

① 嵩山登山(←当日雨天のため みなかみ町「たくみの里」に変更)

地域日本語教室で外国人学習者が習得した「ストレッチング」「ウォーキング」を外国人学習者が日本語で伝え実践する。

②お茶講

中之条町に伝わる伝統行事を中之条住民が、外国人学習者に紹介する。外国人学習者は、お茶講の作法のなかに地域の人々の交流の知恵を学び、日本語での交流を楽しむ。

③温泉

外国人学習者は、予め調べた温泉の楽しみ方やマナーを実践し、日本語を通した「裸のつきあい」を体験する。

6. 専門家・専門機関との連携の強化

- ・医学部保健学科地域看護教室の協力
- ・ストレッチングとウォーキング、マッサージ、頭の体操、エクサカーションの単元に専門家を招聘。

7. 学術研究と連動

(1) 第7回学術集会 メインテーマ「多文化共生社会の実現へのチャレンジ」

日時 平成 27 年 3 月 22 日 09:30 ～17:00

場所 群馬大学医学部保健学科 ミレニアムホール(メイン会場)にて発表

鼎談「多文化共生社会の実現へのチャレンジ」にて、「多文化共生の課題と多文化共生推進士養成の取り組み」として本事業を紹介(結城 恵 群馬大学 大学教育・学生支援機構 教授)

また、「教育ワークショップⅠ. 安心して日本に住み続けるための日本語教室」として、本事業の成果を紹介した(講師:群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」・養成ユニット履修生、多文化共生推進士・結城 恵 群馬大学 大学教育・学生支援機構 教授)

(2) 平成 26-30 年度科学研究費補助金基盤(B)特設分野研究

「外国人住民の文化的多様性を考慮した高齢期ライフプラン作成のための協働実践型研究」(研究代表者 結城恵)で実践の過程と成果を教育社会学(群馬大学・結城恵)、労働社会学(一橋大学・林大樹)、地域看護学(群馬大学・佐藤由美・井出成美)日本語教育学(群馬大学・大和啓子)による学際的な視点で効果検証を行っている。

(8) その他参考資料

新聞報道記事

平成 27 年 6 月 28 日 読売新聞	日本語教室指導者 群馬大が養成講座
平成 27 年 6 月 30 日 上毛新聞	定住外国人に安心を 群馬大開講へ 高齢化備え日本語教室
平成 27 年 7 月 21 日 上毛新聞	マッサージ通じ日本語 太田で外国人教室
平成 28 年 3 月 5 日 上毛新聞	日本語教育の在り方考える 太田・群大で成果発表会

以上